

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

株式会社鈴木製作所

山形市にある株式会社鈴木製作所の佐藤孝輝さん取材しました！

佐藤さんは東北学院大学工学部機械知能工学科を卒業した後、2019年に入社しました。
現在は開発部で勤務しています。

(1) 仕事内容編



——現在の仕事内容について教えてください。

ミシンの設計開発を担当しています。現在、メインの業務は、現行製品のブラッシュアップです。

入社して5年目になりますが、まだ覚えられないところや知らない分野も多いので、上司や先輩に話を聞きながら進めています。



——ミシンをどのように改良するのですか。

部長の受け売りになってしまうのですが、弊社の強みは、縫いの安定性や品質の高さが一番です。それらを大切にしつつ、お客様にとっての「これがあったら使いやすくなる」ような機能を検討し、改良を行います。

例えば、糸調子の自動化です。糸調子の自動化以前のロックミシンは、自分で糸の張力を調整する作業が必要だったのですが、お客様から「縫い始める準備をするたびに自分で張力を合わせるのが大変だ」という意見がありました。そのような問題を解決するために、オートテンション機能を組み込んで、糸調子をわざわざ合わせなくてもよい機能を開発したと聞きました。この過去の開発から、お客様を第一に物事を考えなくてはならない、と学びました。

——佐藤さんがこれまでに関わった改良にはどのようなものがあるのですか。

現在進行形ですが、糸通しに関する改良をしています。小さい穴に糸の先端を入れると、空気を使って、ルーパー（編み棒の役割をする部品）の先端まで糸を通してくれる機能があるのですが、この機能にかかわる改良を担当しております。



——（自動糸通し機能を見て）すごいですね！

そうですね。私も弊社に入ってからミシンに関わり始めたので、昔のミシンだと一つ一つ糸をかけていかなければならないことを知らなかったのですが、最新のミシンを改めて使ってみると「ああ、楽だな。」と思いますね(笑)。

——実際に製品が改良されるまでに長い時間がかかるのですか。

改良したい部分に対してのアプローチの方法を検討し、答えが見つかったら設計し直して、試作品を作ります。それを確認して問題なければ、ミシンに取り付けるという流れです。プロセスが結構細かくなっていますが、お客様に安心して製品を使っていただくために必要なメンテナンスです。

——入社してから成長したことはなんですか。

最初はドキドキしながら仕事を進めていたので、毎回上司に確認をとっていました。もちろん報連相が大事だと聞いていたので、必要と思ってやっていた部分はあります。

今は自分の中で答えを出せる部分も増えてきたので、業務を効率化できたと思います。ただし、まだまだ最短ルートで問題を解決できる自信はありませんので、分からないと思ったことは声に出して質問しています。



——入社してすぐに開発部に配属されたのですか。

最初は1ヶ月程度、各課を回る研修期間がありました。その後に開発部に配属になり、図面の引き方や2D・3DCADの使い方を学びました。学び終えたタイミングでさらに生産課に2か月半程実習にいきました。開発設計するにも、実際に部品を作る工程への理解度が土台になりますので、生産課で勉強してから開発部に戻ってきました。

(総務の酒井さん) ミシンの部品はたくさんありますが、その中には社内で作っているものもあります。鉄などの金属から部品を削り出す金属加工を行って部品を作ります。それらを組み上げるとミシンになります。工作機械で金属を削り、部品を作ることをメインにしているのが生産課という部署です。



(2) 職場編

——鈴木製作所に入社するまで、マシンとは関わっていたのですか。

全然なかったですね。家庭科でちょっと触ったくらいです。

——このミシンを製造する会社に入ったのはどのような理由があるのですか。

私はもともと仙台で就職活動を進めていて、プログラミング系の仕事を軸にして就職活動をしていました。インターンシップなどを重ねていくうちに、実物に触れることができるものづくりに興味が芽生えてきました。自分の地元である山形に就職活動の拠点を移し、いろいろな情報を見ているときに、ちょうど鈴木製作所で面接をしていることを知りました。

「どんなもんかな」と軽い気持ちで受けたのですが、融通を利かせてくれて、面接の途中で、ミシン課の生産ラインを見せてくれました。そこで初めてミシンの中身を見て、ギャップといいますか、イメージと違って技巧の詰まった素晴らしいものだと感じました。自分もミシン作りに携われたら面白そうだな、と興味を持って応募したところ、最終的に採用していただきました。



——就職先は、はじめは宮城で探したということですが、山形に移った理由はあるのですか。

直接的な理由は、自分のやりたいことがプログラミングではないのかもと思い始め、ものづくりをしてみたいと切り替わったことです。それに、単純に地元はどういう企業があるのかをもう一度調べたいと思いました。

——入社して良かったことはありますか。

面接のときから思っていた事ですが、人間関係がいいと思いますね。他の課に仕事内容について聞きにいったも、丁寧に教えてくれますし、嫌な顔をみたことがないです。それに、地元の企業なので、地域性が自分に合っていて過ごしやすいのは想像していたとおりです。

——会社で懇親会等を行うことはありますか。

(酒井さん) コロナ禍前までは、会社全体で芋煮会や新年会といったイベントを開催していたのですが、軒並み中止になっていました。今年の7月にやっと全員で集まれたという状況です。

(佐藤さん) そうですね。新入社員が来ても歓迎会が開けませんでした。



———そういう機会があったら参加したいと思いますか。

私と酒井さんは同期で、ぎりぎりコロナ禍前に入社したので、歓迎会を開いていただきました。その下の世代から開けなかったのが、どちらかといったら開く側になると思います。タイミングさえあればぜひ歓迎会をしたいですね。

———先輩とは、仕事以外のことも話し合える仲ですか。

切り替えがはっきりしていると思います。仕事以外の話が出たときには話すこともありますが、集中すべきところは集中して業務に取り組んでいます。団らんがないというわけではなくて、温かい雰囲気ですね。

———有給休暇は取りやすい環境ですか。

とても取りやすいと思います。

———福利厚生という点で、鈴木製作所さん特有の制度は何かありますか。

(酒井さん) 例えば、インフルエンザの予防接種や定期健康診断の時にがん検診を会社の補助で受けられることです。その他は、そうですね…。特有というよりは、当たり前前制度を当たり前前使えるところですね。

(佐藤さん) 誕生日にケーキでますよ、とかは？

(酒井さん) そうでしたね。会社から誕生日の方にケーキがプレゼントされます。誕生会を毎月やっていますが、その日に誕生日の方はケーキ 1 ホールがもらえます。

——1 ホールもですか！

(酒井さん) 1 ホールです(笑)。その誕生会は誕生者のお祝いはもちろんですが、社長が会社の今の状況をお話する機会にもなっています。

——管理職の方との距離も近いですか。

(酒井さん) 比較的近いと思いますね。特に総務は人数が多くないというのがありますが、部長にも相談しやすいと思います。開発部はどうですか？

(佐藤さん) 距離が遠いというのがどういう状態なのかちょっとわかりませんが、話しかけやすいですよ。

(酒井さん) 仕事以外の話もしますか。

(佐藤さん) 雑談もしますよ。



——鈴木製作所の魅力を一言で教えていただければと思います。

なかなか一言でいうのは難しいですが、働きやすいところですね。残念ながら働きにくい企業で働いたことはないので証拠としてはちょっと弱いですが、自分がストレスなく職場に来て、仕事ができているのはそれだけで魅力だと思います。

——いわゆるホワイト企業ですか。

(佐藤さん) ホワイトだと思います。あからさまに「うちホワイトですよ」っていうと逆に怪しいですけども(笑)。

(酒井さん) 個人の感想ということで(笑)。

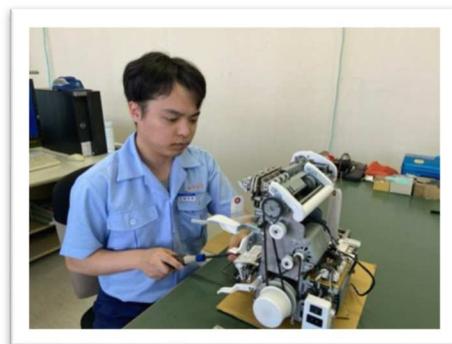
(佐藤さん) 僕の感想です。

(3) ある日の過ごし方編

● 8:20 【出社】

制服に着替え、全員でラジオ体操をします。

その後に朝礼です。「職場の教養」を各課に分かれて毎朝輪読しています。開発部内では、スピーチを月・水・金に行います。開発ではプレゼンテーション能力が問われる場面があるので、自分の考えをスムーズに口に出せるようにする訓練の意味が込められています。



●8:35 【業務開始】

ミシンに関する試作部品の設計・製図(2D・3DCAD 使用)をします。



●11:30 【お昼休憩】

社員食堂で、会社で注文した弁当を食べます。

休憩時間は 11:30 からの前半グループと 12:15 からの後半のグループに分かれています。

私は前半のグループなので、休憩時間が終わったら午後の業務がスタートします。(感染対策で休憩時間を 2 部制としています)

●12:15 【打ち合わせ】

午前中に作った図面をもって生産課へ行き、試作を依頼します。

試作部品ができたなら、ミシン課にてミシン実機へ組付けてみて、問題ないか確認します。



●16:30 【1日の振り返り】

週の初めには、1 週間のスケジュールを全員に報告して共有します。開発部はそれぞれが単独で仕事を進めることが多いので、部長・課長への報告もかねて、先週の進捗と今週の予定を共有する時間があります。

●17:10 【退勤】

退勤後は、友人との食事、実家の手伝い、ゲームなどをしてゆっくり過ごしています。

(4) むらやまでの暮らし編

——山形の好きなものは何かありますか。



ラーメンをよく食べに行きます。最近、仙台にラーメンを食べに行ったときに自分には合わなくて、「山形のラーメンってうまいんだな」と意識した結果、いろいろなところのラーメンを食べに行っています。最近はちょっと遠くの酒田に友人と食べに行きました。

山形のいいところは食べ物がおいしいところですので、「ラーメンおいしいな」と思って日々過ごしています。

——山形でこれまで行ってきたラーメン屋さんの中で、ここが一番うまいというのはどこですか。

ケンちゃんラーメンはガツンとおいしかったですね。なんかそういう質問もあるのですか(笑)。



——事前に学生同士で打ち合わせをしたときに、山形のいいところを聞いて「食」が出てきたときには、もう一步踏み込もうと思い、お気に入りの店を聞くことにしました(笑)。ちなみに、幅広くいろいろ回るのが好きですか。

インドア派なので、あまり動きたくない気持ちはあります。でも新しい味に出会いたいという気持ちもありますので、行ったことがない店がいいですね。



(5) まとめ編

——インターンシップのプログラムについて教えてください。

(酒井さん) 山形県の就職情報サイトにも掲載していますが、インターンシップは随時受け入れ中です。

今ちょうど、山形大学から2名インターンシップに参加していただいています。基本的に各部署を回って、仕事の説明を聞いたり、ちょっとした体験をしてもらったりしています。今日は包装機課という包装用機械を作っている部署で実習をしています。各部署での体験をメインにしたいと思っていますので、日数と内容含め、申し込んでいただいた方とどういったことがしたいか相談しながらプログラムを組んでいます。

——最初から日数が決まっているわけではないのですね。

(酒井さん) 基本的にはご本人と相談ですが、山形大学さんは今回5日間で設定されていたので、5日間でプログラムを組みました。



取材当日、山大生がインターンシップに参加していました！

——佐藤さんの今後の目標を教えてください。

自分で新しいものを作りたいという願望はあります。新しいマシンが発売されるのに合わせて新しい機能の開発が進められたりするので、タイミングさえ合えば、自分が開発したものをマシンに乗せられるように準備していきたいと思っています。

——今後、就活をする学生にアドバイスをお願いします。

私自身、就活の拠点を宮城から山形に移したという経験から、視野は広くもたないといけないと感じています。

例えば経済学部だから商社、ではなく、自分のやりたいものを見つける基準が必要だと後に思ったので、今から就職活動をされる方には、そこを改めて見つめ直してもらえると、悪い結果にはならないと思います。

自分が知らないだけで山形にも自分に合った仕事がたくさんあると思います。



——ありがとうございました！

鈴木製作所はとても温かい雰囲気の家でした。お話を伺っている中でも、佐藤さんや酒井さんの柔らかい物腰や、毎月開催されるお誕生会など、イメージしていた企業像と良い意味で異なっていたのが印象的でした。

【インタビュアー：山形大学人文社会科学部 板橋琉成 安部椋大 岡崎拓未】

株式会社鈴木製作所

★世界でもトップシェアを誇るブランドをもち、ここ山形から世界へ発信！

「人に喜ばれるものをつくりたい」、これが鈴木製作所のものづくりの原点です。そんな純粋な思いから生まれた家庭用ロックミシン「baby lock」は、トップブランドとして世界中のお客様にご愛用いただいております。

★地域未来牽引企業、グッドデザイン商品選定証 G マーク、山形エクセレントデザイン大賞、発明大賞

- ・所在地 山形県山形市嶋南一丁目 12-7
- ・設立 昭和 28 年 6 月
- ・従業員数 133 名（男性 92 名、女性 41 名）
- ・事業内容 家庭用ロックミシンの開発・製造・販売、横型ピロー包装機の開発・製造・販売
- ・URL <https://suzuki-ss.co.jp>

